

宮城県災害時小児周産期リエゾン（小児領域） 運用体制の見直しについて

- (1) 県の災害医療対策
- (2) 災害時小児周産期リエゾンの概要
- (3) 県の災害時小児医療施策と課題
- (4) 課題解決に向けた提案
- (5) 災害時小児医療ネットワーク
- (参考) 今後のスケジュール（予定）
- (6) 周産期リエゾンの運用体制について

概要

保健医療福祉調整本部

宮城県庁内に設置

災害時の保健医療福祉活動の総合調整

- ・ 保健医療福祉活動チーム等の派遣調整
- ・ 保健医療福祉活動に関する情報連携
- ・ 保健医療福祉活動に係る情報の整理及び分析
- ・ 地域保健医療福祉調整本部の支援及び調整 など

地域保健医療福祉調整本部

各保健所・塩釜保健所岩沼支所に設置

保健所管内における保健医療福祉活動の調整

- ・ 保健医療福祉活動チーム等の避難所等への派遣調整
- ・ 保健医療福祉活動に係る情報連携
- ・ 保健医療福祉活動に係る情報の整理及び分析
- 並びに調整本部への報告 など

災害医療コーディネーター

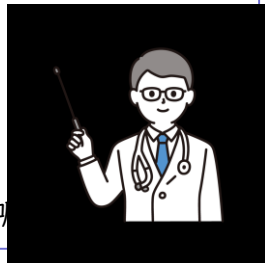
災害時に、都道府県並びに保健所及び市町村が保健医療福祉活動の総合調整等を適切かつ円滑に行えるよう、**保健医療福祉調整本部**において、被災地の保健医療ニーズの把握、保健医療活動チームの派遣調整等に係る助言及び支援を行うことを目的として、都道府県により任命された者

<R6.4.1現在>

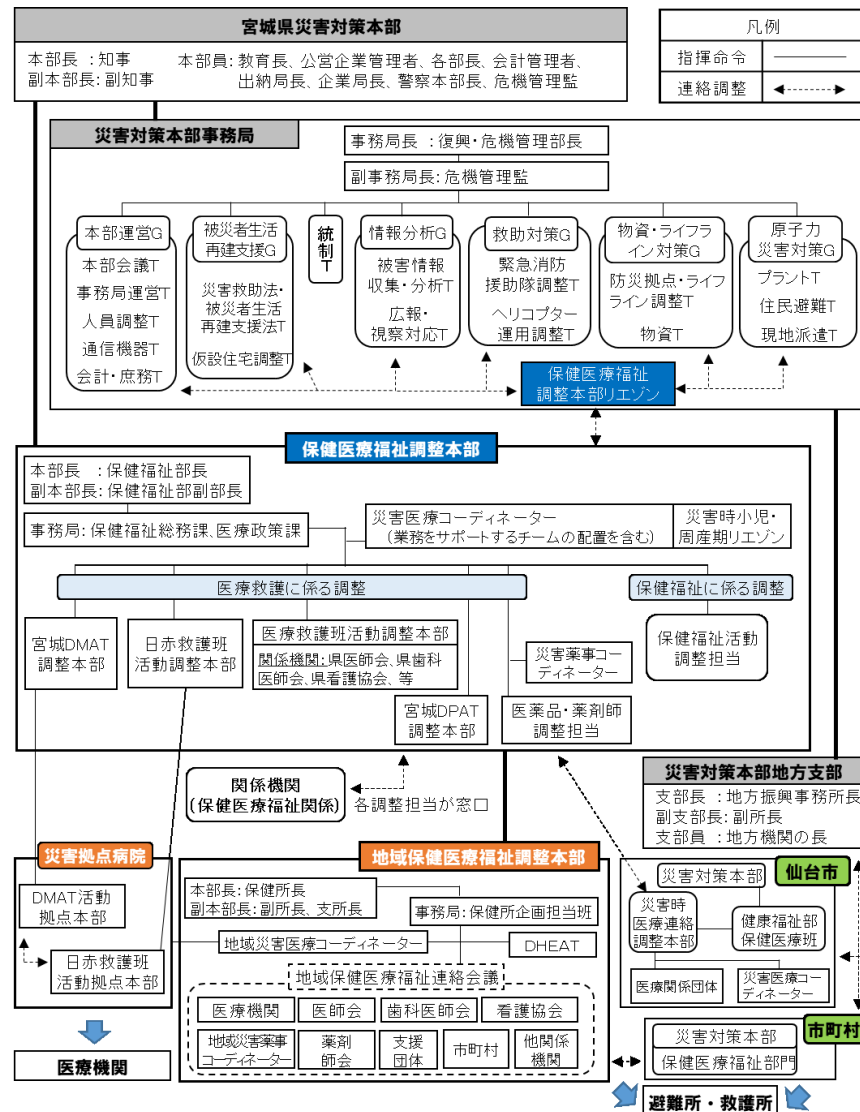
県災害医療コーディネーター 13名

地域災害医療コーディネーター 17名

※保健福祉事務所・支所単位で最低1名委嘱



<体制図>



概要

- 災害時の傷病者等に対する医療提供体制を確保するため、**圏域ごとに災害時の医療救護活動の拠点となる「災害拠点病院」を指定**
- 被災地に災害派遣医療チーム(いわゆるDMAT)や医療救護班を派遣する体制を整備し、災害発生時には災害医療コーディネーターの協力を得て円滑な医療提供体制を確保

No	種別	病院名	医療圏
1	基幹災害拠点病院※1	◎仙台医療センター	仙台
2	地域災害拠点病院※2	公立刈田総合病院	仙南
3	//	みやぎ県南中核病院	仙南
4	//	総合南東北病院	仙台
5	//	仙台市立病院	仙台
6	//	◎東北大学病院	仙台
7	//	仙台赤十字病院	仙台
8	//	東北労災病院	仙台
9	//	東北医科薬科大学病院	仙台
10	//	仙台オープン病院	仙台
11	//	坂総合病院	仙台
12	//	大崎市民病院	大崎
13	//	栗原市立栗原中央病院	栗原
14	//	◎石巻赤十字病院	石巻
15	//	登米市立登米市民病院	登米
16	//	気仙沼市立病院	気仙沼

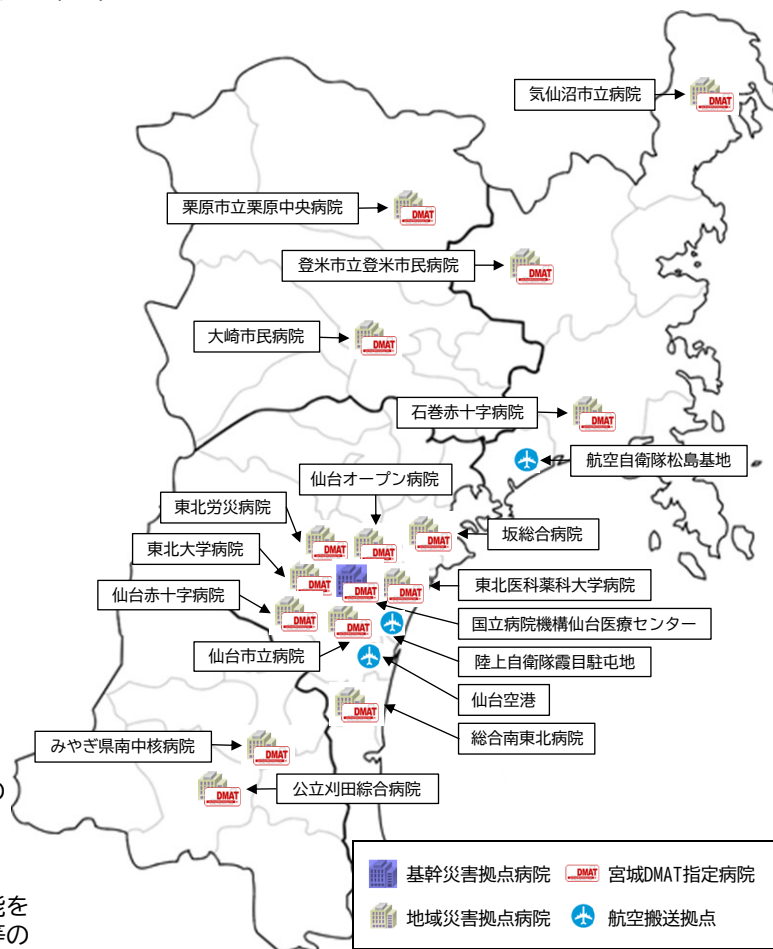
災害拠点病院(16病院) ◎ (3病院) は原子力災害拠点病院も担う

※1 基幹災害拠点病院

原則として各都道府県に1か所設置するものとしており、下記地域災害医療センターの機能のほか、要員の訓練・研修機能を有する病院

※2 地域災害拠点病院

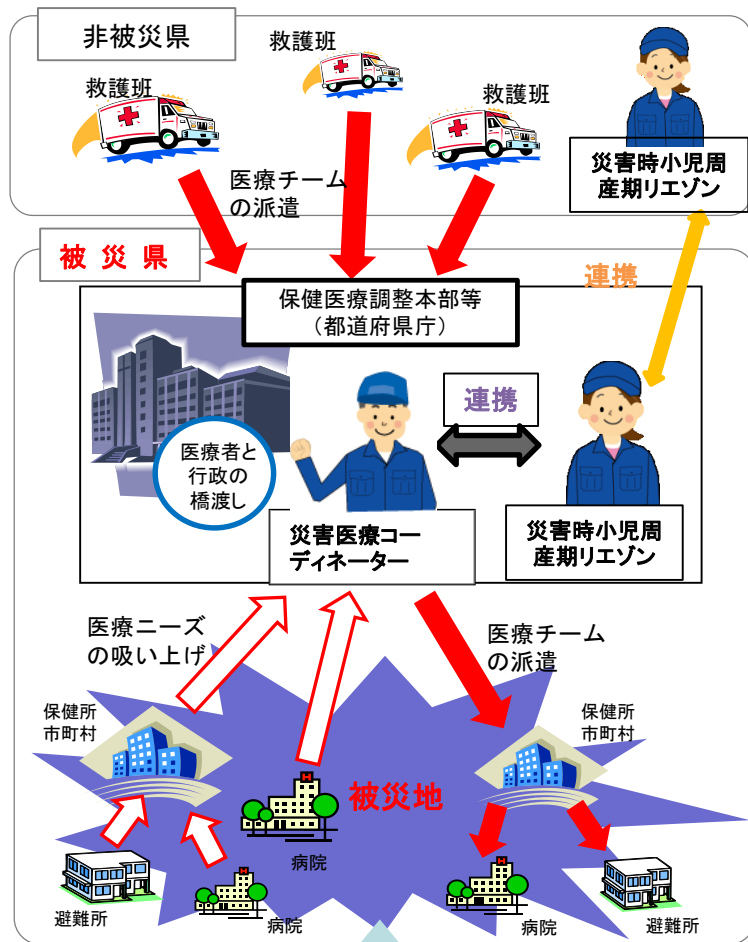
原則として各二次医療圏に1か所設置するものとしており、多発外傷、座滅症候群、広範囲熱症等の災害時に多発する重篤救急患者の救命医療を行うための高度の診療機能を有し、被災地からのとりあえずの重傷傷病者の受入れ機能を有するとともに、傷病者等の受入れ及び搬出を行う広域搬送への対応機能、自己完結型の医療救護チーム(DMAT)の派遣機能、地域の医療機関への応急資器材の貸し出し機能を有する病院



(2) 災害時小児周産期リエゾンの概要

5

災害時に被災都道府県の災害対策本部の下に設置される保健医療福祉調整本部等において、**災害医療コーディネーターのサポートとして、小児・周産期領域におけるネットワークを経由した患者搬送や物資の支援を円滑に行うことを目的として都道府県により任命された者**



情報収集の土台整備が不可欠

災害時小児周産期リエゾン養成研修事業

現状

東日本大震災において小児・周産期領域に関する患者の把握や搬送、情報共有が円滑になされなかったことから、小児・周産期領域に特化したコーディネート機能を強化する必要性が指摘された。(周産期医療体制のあり方に関する検討会等)

課題

- 業務の標準化
- 近隣県をはじめ、他の災害時小児周産期リエゾンとの連携強化



全国研修の実施

災害時小児周産期リエゾン養成研修

(対象者)

災害時に、都道府県の保健医療調整本部において小児・周産期領域に特化して救護班等の派遣調整や搬送調整、物資調達等を担う人材である

- ・ 医師(小児科医、産婦人科医、小児外科医)、助産師、看護師等
- ・ 都道府県担当者

(日程) 1.5日間

(受講者数)

70名程度 x 年3回

(研修内容)

小児・周産期領域における災害医療コーディネート能力の向上を図るため、以下の事項について座学及び演習を行う。

- 災害時の小児・周産期領域における問題点に関する事項
- 医療チームの派遣調整等の体制確保に関する事項
- 被災都道府県下の災害医療活動について、都道府県に対し助言を行う体制に関する事項 等

施策の方向性＜第8次宮城県地域医療計画（小児医療）＞

＜小児救急・災害時医療体制の整備＞

災害時の体制強化を図るため、**災害時小児周産期リエゾン**を育成・配置し、**地域におけるネットワークを構築**するとともに、平時から訓練を行い小児医療における災害時の円滑な医療体制の整備に努めます

施策① 災害時小児周産期リエゾンの配置

- 令和2年度から、東北大学小児科の推薦に基づき委嘱。国の養成研修に毎年1～2名派遣し、養成
- リエゾンは、県の要請に基づき、保健医療福祉調整本部（**県庁**）に**名簿順（委嘱順）に参集**し、小児・新生児領域に関する**県内全域**の医療救護活動を行う
- 「みやぎ県民防災の日（6.12）」に合わせ、発災直後からリエゾン招集の有無を判断するまでの連絡系統の確認訓練（通信訓練）を実施

【課題】

- ①リエゾンの専門性・病院機能の特性・地域性を踏まえた参集可能性が十分に考慮されていない
→ **初動対応の遅れや専門性に応じた対応の欠如**
- ②仙台医療圏に集中しており、地域バランスが考慮されていない
→ **情報収集の遅れにより医療調整に時間を要するリスク**

【災害時小児周産期リエゾン（小児・新生児）名簿(R6.10.1)】

順位	氏名	所属	職種
1	埴田 卓志	こども病院	新生児科医
2	菅原 典子	東北大学病院	小児科医
3	小泉 沢	こども病院	小児科医
4	近田 祐介	仙台市立病院	小児科医
5	田中 総一郎	ほっこり仙台	小児科医
6	北西 龍太	大崎市民病院	小児科医
7	大田 千晴	東北大学病院	小児科医
8	渡邊 真平	東北大学病院	新生児科医
9	木村 正人	仙台医療センター	小児科医
10	渡邊 達也	ほっこり仙台	新生児科医
11	佐藤 智樹	仙台赤十字病院	新生児科医
12	島 彦仁	東北大学病院	小児科医

課題

- ① リエゾンの専門性・病院機能の特性・地域性を踏まえた参集可能性が十分に考慮されていないため、役割が不明確
- ② 仙台医療圏に集中しており、地域バランスが考慮されていない
- ③ 全体を統括するキーマンがいない
- ④ 小児医療に関する情報共有ツールが不十分（1件ずつ個別に情報を追跡）

初動対応の遅れ、迅速な情報収集・支援要請等が困難

提案① 災害時小児医療情報共有ツールの運用（東北大学病院提案）

小児科病院の稼働状況、空床情報、患者受入の可否など、小児医療情報を共有するツール
※Googleスプレッドシートを想定

効果

リアルタイムに近い医療調整が可能

提案② 専門性等を踏まえた招集順位の見直し / 提案③ 統括責任者の配置

招集 順位	氏名	職種
1	▲▲▲▲	新生児
2	○○○○	小児
3	○○○○	小児
4	▲▲▲▲	新生児

招集 順位	小児 リエゾン
1	○○○○
2	●●●●

招集 順位	新生児 リエゾン
1	▲▲▲▲
2	△△△△

統括責任者



効果

- ◆ 役割の明確化
- ◆ 指揮系統の統一
- ◆ 初動対応の迅速化

提案④ 新たに二次医療圏単位に地域小児科リエゾンを配置

小児科リエゾンを**統括(県)・地域の二階層**に見直す
※災害医療コーディネーターや東京都小児科リエゾンの運用を参考

効果

二次医療圏単位のネットワークが構築され、
迅速な情報収集・支援要請等が可能

統括・地域小児科リエゾン配置計画(案)

統括

出務先: 県庁



東北大学病院から選定

(病院ヒアリング結果(R6.6~R6.9))

患者受入れの拠点となるこども病院等から県庁に派遣することは難しい

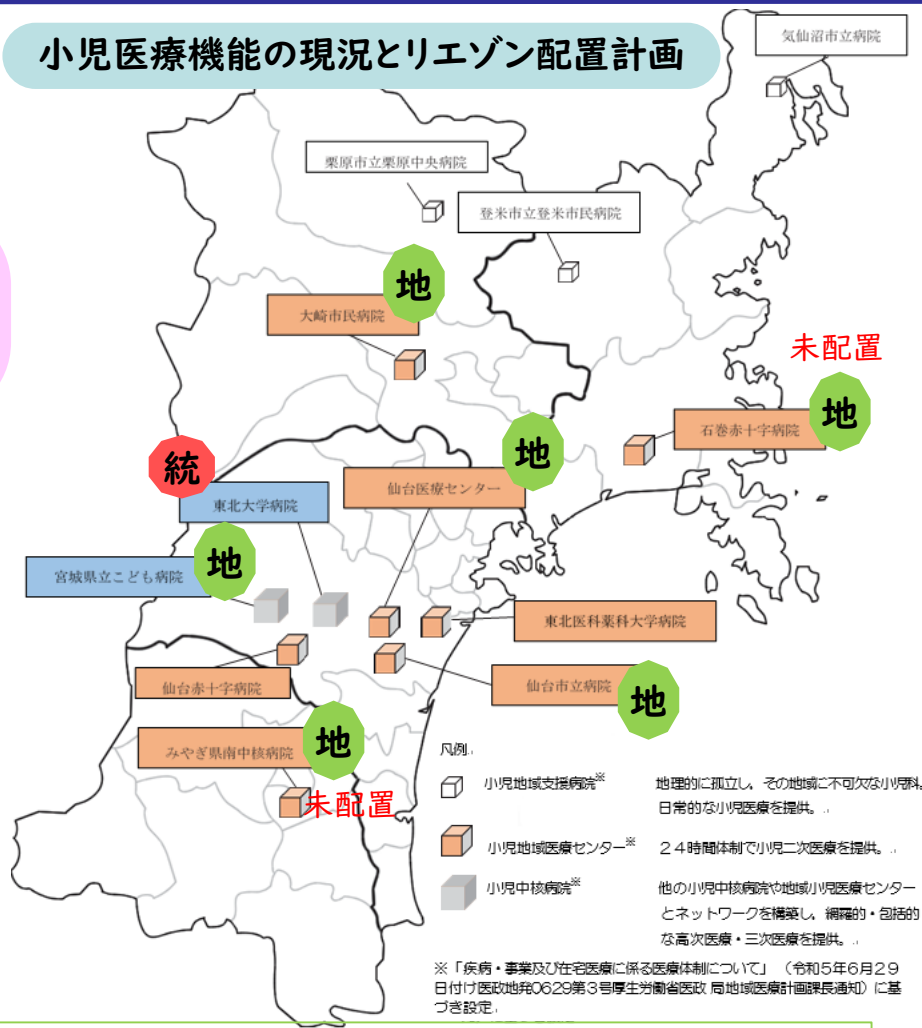
地域

出務先: 災害拠点病院等
(所属病院)



- ・ 二次医療圏単位に最低1名配置
- ・ 仙台医療圏は、宮城県立こども病院、
仙台市立病院、仙台医療センターの3病院に
配置

小児医療機能の現況とリエゾン配置計画



(病院ヒアリング結果(R6.6~R6.9))

東北医科薬科大学及び仙台赤十字病院の診療体制
マンパワー不足により、他の小児地域医療センターと同等の
役割を担うのは難しい(後方支援病院が現実的)

小児科・新生児科リエゾン配置計画(案)

現体制

招集順位	所 属	氏 名	職種
1	宮城県立こども病院	埴田 卓志	新生児科医師
2	東北大学病院	菅原 典子	小児科医師
3	宮城県立こども病院	小泉 沢	小児科医師
4	仙台市立病院	近田 祐介	小児科医師
5	あおぞら診療所ほっこり仙台	田中 総一郎	小児科医師
6	大崎市民病院	北西 龍太	小児科医師
7	東北大学病院	大田 千晴	小児科医師
8	東北大学病院	渡邊 真平	新生児科医師
9	仙台医療センター	木村 正人	小児科医師
10	あおぞら診療所ほっこり仙台	渡邊 達也	新生児科医師
11	仙台赤十字病院	佐藤 智樹	新生児科医師
12	東北大学病院	島 彦仁	小児科医師

統括責任者 東北大学病院 菊池敦生

統括リエゾン



出務先:県庁

	招集順位	所 属	氏 名	職種
小児	要調整	東北大学病院	菅原 典子	小児科医師
		東北大学病院	大田 千晴	小児科医師
		東北大学病院	島 彦仁	小児科医師
新生児	要調整	宮城県立こども病院	埴田 卓志	新生児科医師
		東北大学病院	渡邊 真平	新生児科医師
		仙台赤十字病院	佐藤 智樹	新生児科医師

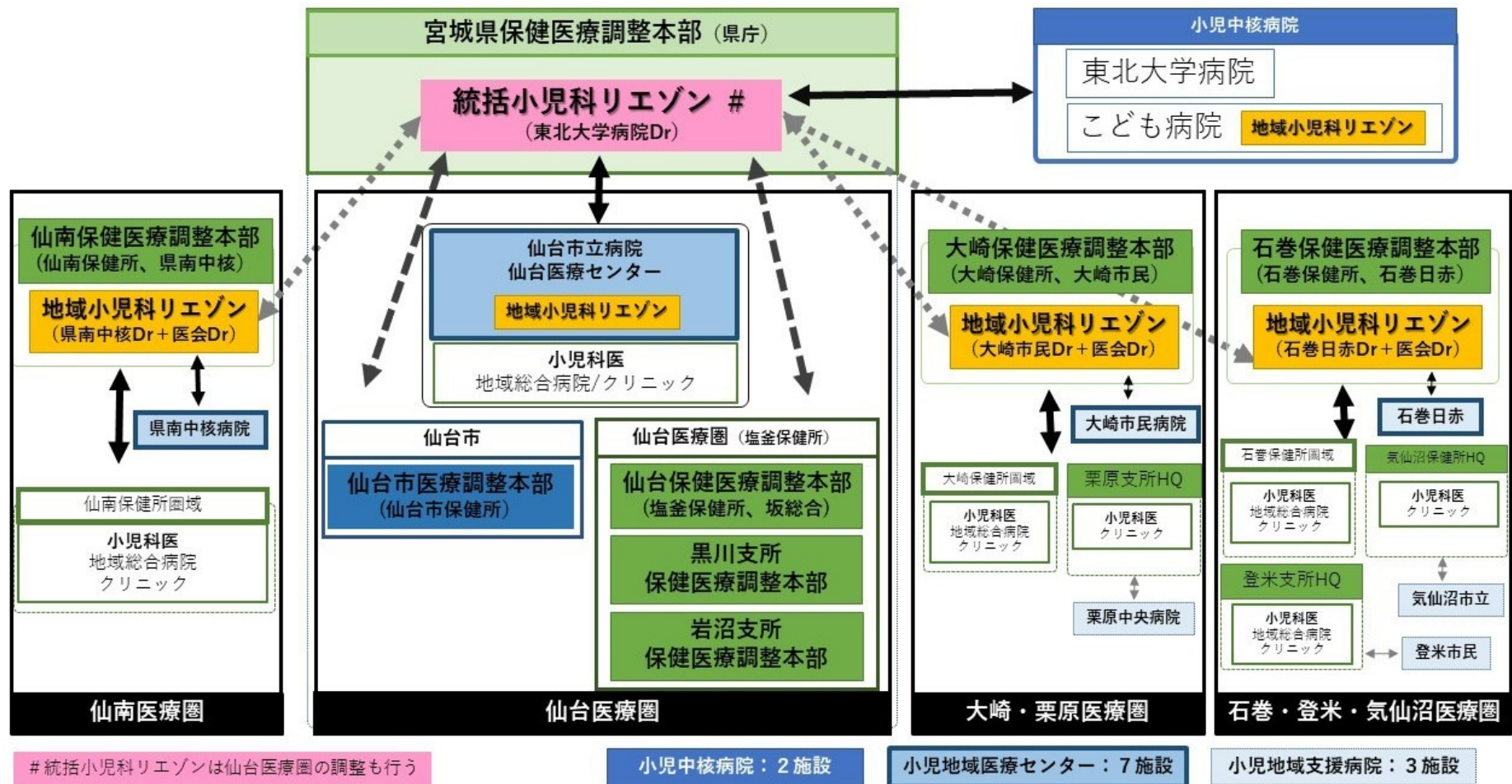
地域リエゾン



出務先:災害拠点病院等(所属病院)

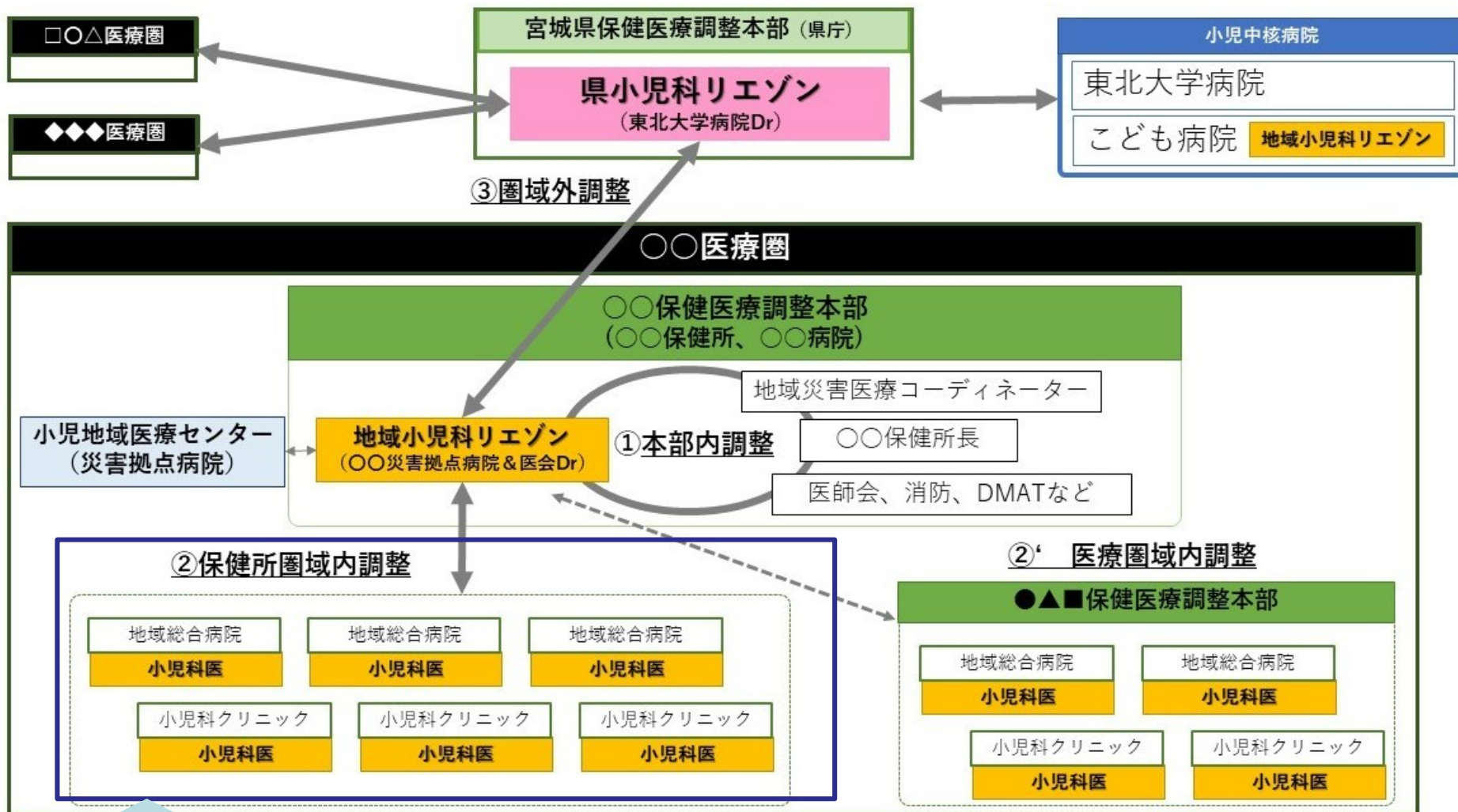
	所 属	氏 名	二次医療圏
小児	宮城県立こども病院	小泉 沢	仙台
	仙台市立病院	近田 祐介	仙台
	仙台医療センター	木村 正人	仙台
	あおぞら診療所ほっこり仙台	田中 総一郎	仙台
	あおぞら診療所ほっこり仙台	渡邊 達也	仙台
	大崎市民病院	北西 龍太	大崎・栗原
	石巻赤十字病院	●● ●●	石巻・登米・気仙沼
	みやぎ県南中核病院	●● ●●	仙南

全県体制



- ◆ 統括：全県的な調整及び仙台医療圏の情報収集・搬送調整等（仙台医療圏の情報窓口を一本化）
- ◆ 地域：
 - ・圏域内調整及び統括小児科リエゾンと圏域外調整（仙台医療圏を除く）
 - ・仙台医療圏の地域小児科リエゾンは統括小児科リエゾンとの連絡窓口として、円滑な連絡体制や所属病院の受入れ体制を整備

地域体制



地域リエゾンは、平時から地域単位の医療者間ネットワークを構築

小児患者搬送の動き



災害時小児科リエゾンと災害医療コーディネーター・DMAT等が連携した搬送体制

【圏域内調整 ①・②】

- ・ 各圏域の地域災害医療コーディネーター等が搬送手段等を調整
- ・ 地域小児科リエゾンが搬送先を調整 (仙台医療圏は統括小児科リエゾンが調整)

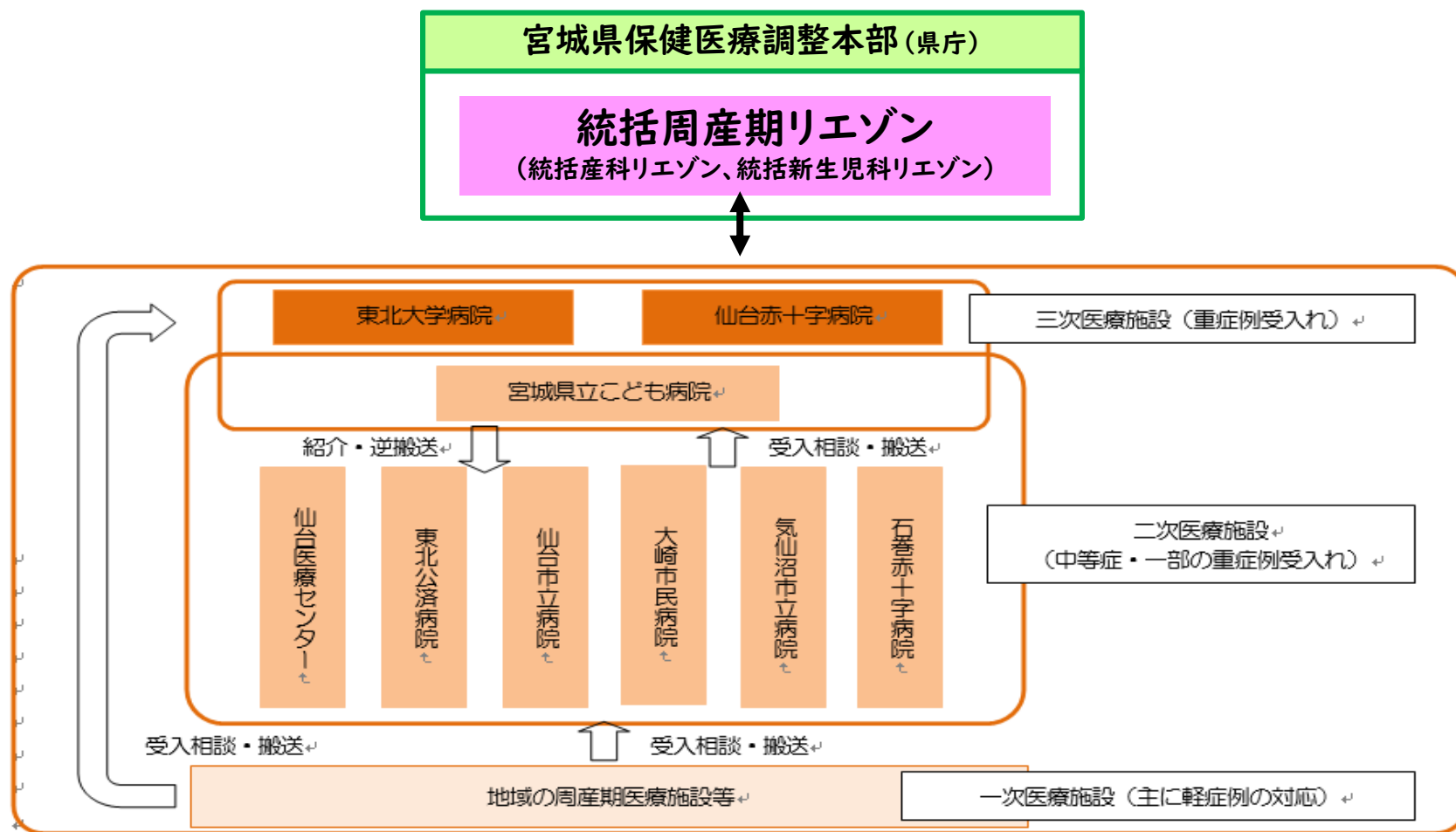
【圏域外調整 ③・④】

- ・ 宮城県災害医療コーディネーター等が搬送手段等を調整
- ・ 統括小児科リエゾンが搬送先を調整

		計 画
令和6年	10月	災害時小児周産期リエゾン意見交換会（見直し案提示）
	11月	小児医療協議会
	12月	運用マニュアル等改正作業 ・宮城県災害時小児周産期リエゾン運用計画 ・災害時小児周産期リエゾン運用マニュアル ・宮城県災害時小児周産期リエゾンの派遣に関する協定書
	1月	
	2月	
	3月	
令和7年	4月	
	5月	地域小児科リエゾン委嘱（予定）
	6月	・災害時小児周産期リエゾン意見交換会(マニュアル(案)等の協議) ・6. 1 2 訓練
	7年度中	新運用計画等施行

(6) 周産期リエゾンの運用体制について

15



◆統括周産期リエゾンの役割

県庁の調整本部において、全県域の情報収集・搬送調整等

◆情報共有、情報収集

平時のネットワーク、メーリングリスト、宮城県周産期医療情報システム、PEACE、EMIS（医療全般）